

平成 30 年度第 1 回市民が主役のまちづくり事業支援委員会会議録

1. 開催日 平成 31 年 2 月 23 日(土)
2. 時間 午前 8 時 30 分から午後 5 時 17 分
3. 開催場所 君津市役所 601 会議室
4. 議題 (1) 2019 年度 1 次募集申請事業の公開プレゼンテーション  
(2) 2019 年度 1 次募集申請事業の採択協議
5. 公開又は非公開の別  
(1)については、公開。(2)については委員の自由な討論が制限されると認められるため非公開(君津市審議会等の会議の公開に関する規則第 4 条第 1 項第 2 号)。
6. 出席委員 12 名  
秋元 秀夫 中川 茂治 奈良輪 政五 重田 和士  
石井 紀美子 新田 力男 礪貝 弘一 福村 英俊  
齊藤 はる代 藤川 英生 鈴木 富雄 石井 清孝
7. 欠席委員 なし
8. 出席職員 5 名  
企画政策部長 山崎 豊  
企画政策部次長 鈴木 広夫  
まちづくり推進課長 茂木 一也  
まちづくり推進課係長 佐久間 貴幸  
まちづくり推進課主任主事 木原 沙都美
9. 傍聴者 なし

---

## 開会(午前 8 時 30 分)

事務局 委員の皆さまにおかれましては、お忙しいところお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

定刻になりましたので、ただいまから平成 30 年度第 1 回市民が主役のまちづくり事業支援委員会を開会いたします。

本日司会を務めさせていただきます、まちづくり推進課長の茂木と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

本日の出欠状況ですが、所要のため、奈良輪委員が午後から出席となるほか、齊藤委員が午前中のみ出席という予定になっております。

委員会設置要綱には、こういった場合を想定した規定はありませんが、仮に 2 名を欠席と扱ったとしても、定足数である過半数には達しておりますので、会議は成立しているということをご報告させていただきます。

また、本委員会は、君津市審議会等の会議の公開に関する規則に基づき一部が公開され、後日、市のホームページで公開されますので、ご了承ください。

なお、本日の傍聴者はいらっしゃいませんので、併せてご報告させていただきます。

それでは、秋元委員長よりごあいさつを頂き、議事へと移ってまいりたいと思います。

秋元委員長よろしくお願ひします。

秋元委員長

— 秋元委員長挨拶 —

事務局

ありがとうございました。

それでは、資料の確認をさせていただきます。資料については、事前に送付いたしましたファイルと事前審査表となります。資料に不足はございませんでしょうか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

不足等ないようであれば、議事に入りたいと思いますが、委員会設置要綱第 5 条第 1 項により、委員長が議長を務めることになっておりますので、ここからは、秋元委員長に進行をお願いしたいと思います。

秋元委員長

それでは、議長を務めさせていただきますので、議事の円滑な進行にご協力をいただけますよう、よろしくお願ひいたします。

本日の議事ですが、

議題 1 「2019 年度 1 次募集申請事業の公開プレゼンテーション」

議題 2 「2019 年度 1 次募集申請事業の採択協議」

秋元委員長     の 2 点となっております。

---

### 議題 1 「2019 年度 1 次募集申請事業の公開プレゼンテーション」

秋元委員長     まず、議題 1 について、事務局からの説明を求めます。

事務局   — 配布資料にて説明 —

秋元委員長     事務局の説明が終わりました。ご質問などがありましたらお願いいたします。

新田委員       最終段階でいわゆる合否の確認をする際に点数で評価するのでしょうか。

事務局       皆さんにこの場で事務局が予備審査でやったように、1 つ 1 つの項目について何点、何点という作業をやっていただくつもりはございません。例えばプレゼンテーションを聞いた結果、事務局の事前審査では、不採択となっていたけれども、委員会としては採択としたいと。総意としてそういう答えがでるのであれば、逆にどの項目の点数を上げて、例えば今のお話で言えば、30 点以上にするのかというところでご審議をいただければなど。あくまでも総合的な点でご審議をいただければと思っております。

秋元委員長     どうですか。ご納得いただけましたか。

ほかによろしいですか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

それでは、発表団体の準備が整い次第、プレゼンテーションを開始いたします。

---

### 事業番号 1

事業名 「大道沢公園にホテルを呼ぼう」市民活動

団体名 大道沢公園ホテルプロジェクト

### プレゼンテーション

秋元委員長     それでは時間となりましたので、事業番号 1 番「大道沢公園にホテルを呼ぼう市民活動」のプレゼンテーションを始めます。発表時間は 10 分、質疑応答が 10 分となります。

団体名および発表者の紹介をしてから事業の説明をお願いします。それでは、よろしくをお願いします。

団体   — 配布資料にて説明 —

---

### 質疑応答

秋元委員長        ありがとうございます。それでは、質疑に入りたいと思います。委員の皆さまから質問等ございますか。

(発言する者なし)

秋元委員長        これ可能性がかなり高くなってまいりました。期待しているんですよ。  
団体                最初は正直な話、勢いでやっていたのですが、ここまできて先ほども申し上げましたようにホタルというものがやっぱり非常に微妙な条件の中で生きてきているんだということが身に染みてわかってきました。本当にこのままでいいのかどうか。というのは、中央博物館にもご指導いただいているので、行ったことがあるのですが、やっぱり各地でこういう増殖活動をやっている人たちの大半がよそから持ってきたり、買ってきたりという人が多くて、それが非常に大問題になっていると。昆虫の世界では法律はないけれども、もう少し大きな動物だと獣やなにかは法律があるわけですが、そういうことを考えると一度絶やした、いなくなってしまった環境に本当にまた持ってきていいのかどうかということ、考えなければいけないというのが、今、日本全部の昆虫関係の学者が言っている。

そういう中でやっていくということで、よほど慎重にやらなければいけないということがよくわかってまいりまして、そういう意味でも先ほど言った、親をどこから持ってくるかということですが、だいたい1番いいのは、もともとそこにいたところのやつをやるということですが、大道沢公園にはもういないわけで。そうすると、地域に移殖を行う場合に種の攪乱を招かないためには、まず第一に当該種が生息していない場所へ新たな一群を移殖するということなんですけれども、その場合には、移植する生物種、下記の順番にて得た集団より増殖したものをを行うと。移植場所については、移植群の由来を明記するというので、我々はこの(1)対象地域と当該種の繁殖交流が可能な範囲より採取したもの、(2) 対象地域のごく近隣より採取したものの原則でやろうということ。最初は(3)の対象地域と同じ水系(流域)内より採取したものも入れていたんです。ところが幸いなことに、三直と練木の方たちが頑張っている、これはどこかからもってくるのではなくてもともといたものを増やしている。そこから、分けていただけることがわかったので、(1)と(2)の範囲の中でやっていくので、種の攪乱でよそから言われることはないという自信は持っているんですけれども。ただやっぱりそうはいつでもまったくいないところに、2 kmくらい離れていますから、それを持ってくるというのが、普通は5、600mがホタルの飛翔範囲内なんだそうです。それを超えているというのは、言ってみれば人間の勝手ではないかとい

うことも言われておりまして、少しより慎重にならなければいけないと思うようになりました。

秋元委員長 都会での育成というのは難しいのではないのでしょうか。私も昔から何十年と見て歩いていますが、やはり生き残るのは山間部、へき地っていうところにホタルね。君津でも清和の怒田沢とか、小糸の山の中で。なかなか都会というのは難しい。何か目にみえないものがあるのかなって。

団体 おっしゃるとおりで、やっぱり大道沢公園で今、我々が一番心配しているのはやはり光です。しかしながら公園から光をなくすわけにはいかないわけで、人間がやっぱり安全でなければいけないし。それともう一つは水が綺麗でなければならぬと我々は考えているわけです。その綺麗というのがホタルにとっての綺麗と人間に限るところの綺麗は違うんですね。ホタルのほうはむしろ、生活排水や農業排水、農薬とかそういう薬品がなければいいので、落ち葉が落ちていたり、藻がいっぱいあるのは実は良い環境なんです。ところが人間が見ると落ち葉があったり、あるいは藻が生えたりするとすぐクレームが来るわけですよ。公園の管理のほうに。そこが非常に一番問題で、結果として地域の人たちと一緒にやって、講演会などもやって色々ご理解いただこうということですけども、最終的にはやっぱり一番最初に想像したとおり、地域の人たちとそういうことをどうやって共有できるかということになってくるなと思っておりまして、ますます先ほど言ったように自分たちが勝手にやるのではなくて、皆と一緒にやるんだという機運をどうやって高めるかということも含めて、非常に簡単ではないというふうにより自覚を深めています。

石井(清)委員 君津の三舟山のところだとか、清水溪流広場のところだとか今、結構ホタルが育つ環境が良くなってきていて、まさに住民の方がすぐ歩いて見に行けるようなところでできると素晴らしいですね。

団体 非常にそういう意味で我々が目指しているのは、大道沢公園の中で人間があまり手を加えなくても自然に生活サイクルを循環してもらえるようにしたいと思っておりますが、やっぱり一番なのは先ほど言った2つの問題で、綺麗というものをどう考えるかということと、もう1つの最大のもは光だと。あとはどうしても公園ですから、ホタルが上陸する場所を皆が踏んでしまえば死んでしまうわけです。こういったところをどうやってやるかというところが、一番気になるところです。

この綺麗にする活動が公園そのもののことですので、単純に我々メンバーだけでやれることではないし、やはり都市整備課のほうとどういうふうに関連しながらやっていくのかと。例えば、先ほどの育成ハウスは

外箕輪小学校にお願いしていますが、出来れば公園の中で本当はそういうことをやりながら、そこで循環することを願えれば一番いいなと思っています。例えばこういうところも、1m くらいは踏まれないようにということで、実験的に 40m くらいこちらから草が入ってしょうがないから、この間にこういうふうにキショウブなどを植えています、この植えているのが刈られてしまうんですね。さらに踏まれてしまう。だからそれを何とかしたいので今こういうかたちでやっています。あくまでも実験的にやっているだけで、本格的にやる時にはやっぱり行政のほうのご尽力をいただかなければならない。

中川副委員長 ホタルは飛んでいるということで。その世代交代が適度にでき始めているということですか。

団体 いや、そこまで。やっぱり言葉はあれですけども、それなりにGREEN CANVASの人たちが環境を良くしてくれているところから許可を得て、数頭、雌と雄を選んで取ってきて自分たちのところでやっていますので。初めて公共的な外箕輪小学校で出来るようになった。

福村委員 幼虫はもう育っていますか。

団体 全体では、1000 頭くらい。でも、自然界からいったら 1000 頭なんてなんてことはないんですよ。なにせ 1 頭が、1 つのつがいが、500~600 産みますから。

中川副委員長 もともと公園自体が多自然型ではないので大変かと思いますがそれでも、頑張っていたいただければと思います。

---

## 事業番号 2

事業名 きみつ里山のにぎわいと生業（なりわい）創出事業 3

団体名 きみつ里山活動ネットワーク

プレゼンテーション

秋元委員長 それでは時間となりましたので、事業番号 2 番「きみつ里山のにぎわいと生業（なりわい）創出事業 3」のプレゼンテーションを始めます。発表時間は 10 分、質疑応答が 10 分となります。

団体名および発表者の紹介をしてから事業の説明をお願いします。それでは、よろしくをお願いします。

団体 — 配布資料にて説明 —

---

## 質疑応答

秋元委員長 ありがとうございます。それでは、質疑に入りたいと思います。委員の皆さまから質問等ございますか。

新田委員 去年、生涯学習交流センターで行われた活動事例の発表会に参加させていただいて、非常に君津の可能性というかそういったものを感じたわけなんですけれども、やっぱり活動ですからさらにこう一歩、二歩前進していくということが必要だと思うのですが、そのあたりについて新規開拓とかそういうようなことについては、どういったやり方でされていくのか。あるいは行政とか農協さん、J Aですね等々と、どういったかたちでの連携を考えているのか。

団体 今、引き続きやっているものなのですが、昨年のこの場で新しい農作物ということで農業を中心に考えていきたいということでお話をさせていただいて、今年1月、東京農業大学の先生ですとか、実際に小糸で農業従事されている方ですとか、あと上総高校の先生ですとか料理研究家の方ですとか少し専門知識のある方々と会合を持たせていただきまして、これからどうしていこうかと、市場の拡大にはどうしたらいいのか専門的な知識を持っておられる方を交えて私たちどもがまったく想像しなかったような内容をお聞きすることで、次に私たちが何をすればいいのか、あるいは先生方にどういったことを調べておいてほしいのかといったことを常に宿題のようなかたちとして次のステップアップに臨むというようなかたちでやらせていただいております。今後同じように、なかなか専門の先生との機会を得るといことは難しいのですが、そこは負けずに出来る限りブレーンを使って進んでいきたいと思っております。今これを介して、まちづくり推進課の職員の方ですとか、あるいは農政課の皆さんですとか農林整備課の皆さんとは雑談も含めてお話をさせていただいて、君津市さんがどういうふうに考えているのか、私どもはこういうふうにしたほうが良いとか、こういうふうを考えているとかお話をさせていただきながら、お互いの情報交換をしてやるように努めております。ただ、まだJ Aさんのほうとは会の中でも話はできるのですが、まだ、時期尚早かなというところがでておりますので、今のところはまだ連携というかたちには至っておりません。もう少し農業のほうを今年も引き続きやりますので、進んでいったときにご相談に伺おうかなと考えております。

福村委員 里山という世界地図に君津を載せようという壮大な情熱を感じますけれども、やっぱり里山は生活サイクルがまわるということがポイントですよね。ですと、グローバル化の中で地域の産業化に支援するというか、そういう芽を育てていく素晴らしい活動だと思うのですが、それを産業化するには大変な、グローバル化の中でね。そのご苦労があると思いますが、1つ1つその芽を出していく、育てるという方法。

団体

そうですね。私、普段は建築の仕事をしているのですけれども、やはり建築業界も木材の輸入の関係である程度、外国産を使わないとちょっと色々な問題が発生してしまうという事案がありまして、その中でオリジナルのものだけでやっていこうということは非常に難しいことだと思います。逆に地域の中でオリジナリティが出来て、出来たから他は関係ないと言ってしまうと、これもまた問題になるのかなというふうに思います。ですから、地域ではこういったかたちを模索して、ある程度かたちが出来たといったときに、やはりそれを世界に向けて発信して行って、世界がどういうふうに見るか。その中で、お互いに交換できるもの、物資でもいいですし、知識でもいいですし、そういったものを交換することで、やはり世界の中の君津という、私はなるべきだと思います。今、日本というところに沢山の海外の方がみえられているのですけれども、彼ら、私もたまたま外国人の友人がいるもので聞いたのですが、彼らが日本に来るときは、日本の歴史とか文化を、自分の好きなところだけですが、非常に勉強してきて、それを体感するために日本にやって来るというスタンスなんです。でも、日本人の海外旅行というどちらかと言うと、ガイドブックを見てちょっとここへ行ってみたいという感じで行っている方が多いのかなという気がしておりますので。日本も自分たちもこういう文化を持っているから、他でやっているところも見に行きたいという、こういうスタンスがすごく大事になってくると思うと、やはり地域としてしっかりと文化が根付いてないといけないのかなと考えておりますので、非常に大変なことだと思いますが、でもやるべきことなのかなと考えております。

秋元委員長

今3つの点を挙げていますけど、私はもう1つ加えていただきたいなと思います。そういう素晴らしい里山がいっぱいあるのに、学校とかそういう施設がどんどん廃校になっていく。ですから例えば、四国、大阪、近畿の人たちは子どもたちを集めたり、熊本県が北九州の子どもたちをそういった里山の学校に集めて成功しておりますので、あなたたちも是非、学校と協力してこういう素晴らしい里山の中にある学校で子どもたちを育てませんかというような機運をさせていただいて、千葉県へと対岸のあるいは都内の子どもたちがいっぱい移ってきて学校を廃止しないように一つ是非、協力をいただければと思う。

団体

そうですね。非常に素晴らしいことだと思いますので、是非それも視野に入れて。

秋元委員長

前例はあることはあるんですよ。ですから申し上げているんですけどね。



ほかにございませんか。

藤川委員 構成団体として、かなりたくさんの方の団体、しかも非常に色々活動されているようなところが入っていますが、どのようななかたちで連携してやっておられるのですか。

団体 正直なところを申し上げますと、今、私の力不足なのですが、実際には同じ意識を持っているというところで繋がっているだけで、実際にじゃあ今度これをやるので皆さんどうしていきましょう。という調整が私のほうでなかなか出来ていないところが課題でして、今年は各団体に赴いて、取材といいますか、実際にこういうことだったら出来るよ。というようなことをお伺いして、それをもとに企画ですとか、じゃあ、こういうことをやってみましょうということをやるようにはしたいなと考えてはおります。

藤川委員 これだけの構成団体がおられるから、相当なことが出来そうですね。

団体 そうですね。非常に力強いメンバーなんです。私、若造で役員会なんかに行っても子ども世代になってしまうのですが、得るものばかりでして、この方たちと一緒にやれることが非常に素晴らしいなと思いつつやらせていただいております。

藤川委員 世界に誇れる里山づくり、是非、こういう団体と緊密な連携をとってやられたらいいと思う。代表の鈴木さんがある会合のときにご挨拶の中で連携プレーを取るのが非常に苦労しているというようなご発言がありましたけれども、頑張ってください。

秋元委員長 ありがとうございます。

今後とも大いに期待しておりますので、よろしく願いいたします。

---

### 事業番号 3

事業名 鹿野山古道の整備と保守管理

団体名 鹿野山古道を守る会

#### プレゼンテーション

秋元委員長 それでは時間となりましたので、事業番号 3 番「鹿野山古道の整備と保守管理」のプレゼンテーションを始めます。発表時間は 10 分、質疑応答が 10 分となります。

団体名および発表者の紹介をしてから事業の説明をお願いします。それでは、よろしく願いいたします。

団体 — 配布資料にて説明 —

---

### 質疑応答

- 秋元委員長      ありがとうございます。それでは早速、質疑に入らせていただきます。
- 重田委員      今の鹿野山古道の利用状況がわかりましたら、教えてください。以前にちょっと歩いたときに、何か車が入ってきていてだいぶ崩れたりなんかしていたので。今はないと思いますけれども。
- 団体      車対策として、車止めを鹿野山古道の入口のところに設置しているのですが、車止めの手前まではかなり入られてしまっていて、かなり滅茶苦茶になっちゃっているところがあります。車止めを作っているんで、そこから先はきちんと維持はされているのですが、実は結構一番の問題というのは車の侵入でして、四輪駆動車の愛好家の方々が入ってきてしまうのを止めるというのが。迂回して入るルートを作りだすんですよ、彼らは。バリケートを破られたりしたら、そこにまたバリケートを作り直したりだとかですね、最初はちょっと心理的なところで、看板立てて入らないでくださいとかやっていたんですが、それだけではダメなのかなと最近は思っています。今のところ、バリケートから先はきちんと維持はされています。
- 重田委員      歩く人というよりも自転車の方が。
- 団体      そうですね。自転車はそんなにたくさんは入っていませんけれども、我々と一緒に活動してくれている房総森林会という自転車の会があるので、そこは自転車を使ってパトロール走行して保全活動なども一緒にやってくれたりしています。
- 新田委員      鹿野山にはいくつか同じような団体があるのですが、小出さんが代表でいらっしゃる愛彩の会も同類って言ったら、ちょっとあれですけども、すみわけはどういうふうにされているんでしょうか。それから、いわゆる事業の収入が協賛金 40 万円というかたちで計上されておりますけれども、目途感というのはどういうかたちであるのか。あわせて団体の構成員が 9 名で、そのうち女性が 4 名いらっしゃいます。結構な肉体労働で、そのあたりが少し心配なのですが、女性の作業をどのように考えておられるのかお聞きしたいのですが。
- 団体      私、もともと鹿野山古道やっていたんです。君津の教育長さんが昔、古道をやっていたときに作ってくれた歌と踊りがあるのですが、10 数年前からやっています。「こだまの会」というのでやっていたのですが、会長さんが亡くなってしまって、それと同時に 6 年間、補助を受けてやっていたのですが、そのまま放置していたということで、どんどん浸食がはじまって、通れるのは自然の中を自然に歩くということにして、やっていたのですがね。もうどんどん浸食が激しくなってダメなので、な

んとかできないかなということで、去年ちょっと相談しまして。そうしたら房総森林会という、さっきお話ししました自転車の人たちがいるわけです。その房総森林会の人たちが非常に若くて力もあるし、協力するよということで、そういう話がありまして、7月から草刈りなどはやっていたので、そこに房総森林会の人たちが協力を申し出てくれたので、じゃあ、土のうも作れるなということで、計画を立てまして。はじめは草刈り程度でいいかなと思っていたのが、だんだんそういうかたちできたので、これだったらやれるということで。そのかわり、房総森林会の方たち東京から来たり、市原から来たり船橋から来たり、非常に遠いところから来てくれています。月にだいたい2回くらい。あとの週は富士に行ったり、あちこちに自転車で行っていますので、月に2回くらいは何とかなるかなと。いうことで計算したのが、この数字です。非常に遠くから来てもらうので、交通費もかかるので、全部だしてもとてもあれだから、半分ぐらいにしてくださいよということで、交通費の半分をなんとか負担できればしますよというかたちにして、計上させてもらっています。

そういう中で、昔からやっている古道ですので、教育長さんが一生懸命、当時やってくれていたのが、残したいなと思っていましたので、やってもらえれば、こういうのをしてもらえれば。中間のところに橋もかけなきゃいけません。だから、そういう意味でご協力をいただければやっていきたいと思っています。そういうことで、この鹿野山古道は昔からある古道ですので。ただ、鹿野山の道の舗装が全部、一か所に集中してしまったので。街中の、神野寺の前の道。

そんなこんなで、やっていますので今の質問の答えになったかわからないですけども、そういうことで交通費の計上と人件費、非常に多いとは思いますが、そのあたりは土のうを作って一生懸命やる。それは若い人たちがやってくれるということなので。

新田委員  
団体

そうすると、このメンバーは9人プラスの房総森林会の方々が入って。そうですね。房総森林会だけじゃなく、早稲田の大学生もうちへ来ますから、色々な人たちがいろんなかたちで。

福村委員

古道ね。これは素晴らしいと思います。高尾山なんかもみんな登ったりして。整備をされることは素晴らしいのですけれども、やっぱりちょっとどういうふうに作られるのか。図面というわけじゃないですけども、イメージがちょっと。最初から人件費とか旅費とか入ってきているので、もうちょっと最初の年は図面を作るだとか調査だとか、昔はどうだったとか。そういった調査が必要じゃないかと思うのですけれども、そういうところは鈴木さんの頭の中に入っていると思うのですけれど

ども、ちょっと漠然と。

団体 鹿野山古道のはじまりは十数年前に始まって、「こだまの会」が始めたということで、とりあえず観光資源の一つなんです。観光客を呼ぼうということで。それはもう達成しているっていうとおかしいのですが、相当な数が挙がっているんで、ただこのところちょっと中断なんかされたりしているんで、あれですけども。ほかのところはいいのですが、相当もう荒廃しているんで。流されてしまっ。

秋元委員長 時間でするので終わりたいと思いますが、一つだけ簡単に答えていただきたいのですが、このボランティアの謝礼とですね、交通費が予算の中の大部分を占めているわけですが、これは一時的なものですか未来に続くことなんですか。

団体 これは一時的ですね。1回やれば。元を止めてしまえば。

藤川委員 その件ですけどね、今おっしゃっている方々以外の人に対してボランティアを募集するようなことをお考えになっているのですか。

団体（鈴木） それも考えてはいます。

藤川委員 一つ私から提案しますけれども、私、鹿野山に墓を持っているんですよ。そこの墓周辺を見ますとね、横浜だとか東京からいっぱい来ておられるわけですね。非常に鹿野山に関心を持っているわけです。私もそうなのだけども。そういう人に声をかけたら、3千円も出さなくたって奉仕する人たくさん来ると思いますよ。

この鹿野山の未来を宣伝するように書いたでしょ。目標をもっておられるわけでしょ。そういう意味ではもっと広くボランティアを募集したらどうですか。

団体 でも、なかなかボランティア集まりそうで集まらないですよ。来てくれた人が定年退職後だと土のうを作ったりするのは非常に大変でして。

秋元委員長 大変恐縮ですが、限られた時間で。この後、たくさんの審議がございすので、これをもって質疑を終わりたいと思います。

---

#### 事業番号 4

事業名 地域内道路環境の美化推進事業

団体名 利根道路美化推進班

プレゼンテーション

秋元委員長 それでは時間となりましたので、事業番号4番「地域内道路環境の美化推進事業」のプレゼンテーションを始めます。発表時間は10分、質疑応答が10分となります。

団体名および発表者の紹介をしてから事業の説明をお願いします。そ

れでは、よろしく申し上げます。

団体

— 配布資料にて説明 —

## 質疑応答

秋元委員長

大変失礼だと思いますが、利根というのはどのあたりになるんですか。

団体

亀山と接しております、松丘駅から 2.5 km くらいのところなんですけれども。県道・千葉鴨川線にそういった集落というか地区でございます。隣は名殿、先が大中という。松丘駅過ぎまして、県道・千葉鴨川線がございますけれども、松丘駅を過ぎますとトンネルが例のニュースで有名になった崩落したトンネル 3 か所越えたその先でございます。

福村委員

素晴らしいボランティア活動で、本当に敬服するのですけれども。写真か何かで、ここがこうなったとか、そういうのがあれば。

団体

今年の実績報告に使う予定ですけれども。例えば、これは花ですね。あと草刈りはご承知のように。

— 実績報告で提出する写真を回覧 —

新田委員

実施距離が 2 km とおっしゃっていましたが、それは今回の対象距離が 2 km でしょうか。それから今回 3 回目の申請になりますが、これまでの実績距離、それから今後またどの程度までのスケール、構想をお持ちなのか。

団体

26 年に発足いたしまして、千葉県が道路アダプトプログラムっていうのをやっております、当初は県道・千葉鴨川線、県道 24 号線の利根という地区を、真ん中を走っておりますけれども、それが対象でその長さは約 1 km。一昨年から市の 1% 支援事業にお願いしまして、もう 1 本 T の字に市道が交差してまして、その市道も含めるようになりまして、あわせて約 2 km ということでございます。今後の考え方としては、私も朝ジョギングをしているのですが、走っていると他の地区ですね。例えば、私の利根という地区がありますけれども、他に名殿とか柳城とか亀山地区とかあるのですけれども、そこを走りますと非常にゴミが捨てられ、草が繁茂していると。管理者もなかなか手が届かないと。そちらもやりたいとは思いますが、やはり他の地区を私どもが手を出すというのは非常に考え方が色々あるかと思っておりますけれども、ちょっと今のところ。出来ることであればみんなやってやりたいのですけれども、あんまりやってもまた色々あるものですから、そのあたりは今後またちょっと考えていきたいと。あと人数の関係もございますので、1,000 km のうち 2 km でございますけれども、しかし人数が。ですから先ほどもちょっと言いましたけれども、他の地区もこういう公物管理ですね、要するに管理者、

要するに税金だけに任せるのではなくて、自分たちの生活道路でありますから、本来であれば管理者が税金でやるべきだという人もいますけれども、やはり私たちの生活道路ですから、やれることは自分らでやるべきだという認識を広めたいとは思っていますけれども、なかなか行政に対する考え方が色々あると思いますので、今そういう段階でございます。

秋元委員長　市民が主役のまちづくり事業っていうのは、あなたがおっしゃるとおりで、そういう人たちをいっぱい増やしていきたい。

団体　役所がやってくれるのが一番いいのでしょうけれども、限りある資源でしょうから、住民の皆さまもある程度そういう意識を持っていただけたらと思います。

議員委員　草花を年2回程度ですか植えるということで、草花植えてから缶を捨てるだとか、そういうのが少なくなっているのでしょうか。

団体　この写真にあります植栽柵は以前、草ぼうぼうで、県も刈ってくれないので、自分たちが刈るぐらいでゴミも捨てられていたのですが、今は植栽柵にゴミを捨てる人はおりません。月に1回はゴミ拾いをやっていますが、道路の路肩にはまだまだゴミを捨てる人はいます。

議員委員　他の地区にはなかなか声をかけにくいというお話ですが、ボランティアをちょっとじゃあ地区の中でもですね、やってみようかっていう、そういうボランティアに自主的に参加してくれる人はいるのでしょうか。

団体　隣の地区とか色々付き合いがありますので、話はしますけど、やっぱり役所がやることだよって言う人も結構います。いいですね。という人もいるんですけどね。

秋元委員長　ここに交通環境にもって書いてありますけど、おっしゃるとおりで、走っていますと一時停止ラインがあるので、一時停止ラインの左右が草ぼうぼうで止まっても見えないっていうところが非常にあります。ですからそのあたりに効果があるということをもっと強調してください。

団体　例えば木更津の第二中学校の下の国道は地元の請西地区がやっているという話なんですよね。あと、木更津東インターチェンジのところは馬来田地区がやっています。それから君津では、結構、道路のところをやっているところは草花なんか植えているところはありますね。あとは大井のところ、あの人一人歩道の土砂の除去作業をやっている方がいらっしやいます。どなたさんかわかりませんが、結構、コンスタントに私も目にしますけれども、多分あの方は自主的に一人でやっていると思う。そういう方も結構いらっしやることはいらっしやる。なかなか

こういうかたちでやっていくっていうのは、この手続き自体もこういうところで話をして、結構負担にもなると思う。ただ、税金を使わせていただきますので、やむを得ないことかっていう面はあるのですけどね。もう少し手軽にできればありがたいですけどね。

秋元委員長      ありがとうございました。是非、広がっていくように。ですからその辺についてもお力添えをいただきたいと思います。

---

## 事業番号 5

事業名 小櫃のふるさと環境整備

団体名 小櫃地域ふるさと活性化組合（そうじいや）

プレゼンテーション

秋元委員長      それでは時間となりましたので、事業番号 5 番「小櫃のふるさと環境整備」のプレゼンテーションを始めます。発表時間は 10 分、質疑応答が 10 分となります。

                  団体名および発表者の紹介をしてから事業の説明をお願いします。それでは、よろしくをお願いします。

団体                                  — 配布資料にて説明 —

---

## 質疑応答

秋元委員長      ありがとうございました。それでは早速、質疑に入らせていただきます。

議員委員                    事業費が 33 万で団体負担金が 13 万 7 千 336 円と予算が入っていますが、団体負担金というのは会員の人が負担をされているのでしょうか。

団体 1                      参加者約 30 名いるのですけれども、参加した人たちに会費を少しもらいながらやっております。

福村委員                    何キロって言われましたかね。掃除される距離は。

団体 1                      10 km です。

福村委員                    これだけの距離を地域の方々がこうやってボランティアで綺麗にされるということは素晴らしいことだと本当に敬服しております。こういうことをやられるときは、安全性がちょっと怖いところがありますが、保険はかけておられるのですか。

団体 1                      会として保険はかけておりません。かけようかなと思いますけれどもやはり資金がないもので。かけないで役所でやっているボランティア保険の中でなんとか賄おうかなと思っております。

福村委員                    通過する車なんかがね、わかるように旗か何かでやられるのですか。

団体 1                      一生懸命草刈りやっていると、誰か持って立っているっていうのはな

かなかできないので、車に縛り付けるのですけれども、車は遠くに停まっているっていうのもあります。現状はそんな感じですが、できるだけ石が跳ばないように中側へはくようにしています。

団体2 付け加えますと、草刈りをやり始めたときは、ちょっと危なかったのですが歩道側にパネルを持ってもらって、やっぱり車とかそういうのに傷をつけたら問題がおきますので、やり始めたのですけれども、それはすぐ辞めました。やはり人が風圧で結構ダンプとかが通ったら風で倒されたりなんかして危ないというのがありますので。出来る限り草を伸びさせないようなかたちで、ときどきこう除草剤をまくというのが今最適な方法ではないのかなというふうに理解しております。

団体1 私ども事務局からすると継続することが大変だなと思っています。やっぱり継続してやっていかないと草がどんどん増えてきますから、やっぱり年に最低でも3回はやっていかないとどうしても伸びちゃうなというところで。ちなみにちょっと比較を用意したのですけれども、木更津市の国道410号、木更津市にずっと向かっていきますと草がものすごい。小櫃まで下りてくると綺麗になっているという。やっぱり回数やらないとダメだなと経験上わかりますけれども。

齊藤委員 除草剤が約10万計上されておりますが、子どもたちの通学路については少なくお願いしたいと思います。私、地元なものですから。特にお願いします。

団体1 1番肝心の植栽したような通学路はあまり薬をまかないで、手鉤でやっています。刈る人が少なければ私も孫がいるので、そこはちょこちょこ行って自分一人で刈ったりしています。国道の大きな道路は薬をまいてしまいます。薬についても3回が限度だと思っています。それ以上やると薬害というか体への影響も出てくると思いますから。一応、色々なかたちでJAを通して薬は何回使用できるか、これは適合しているのかなんてところは調べてあります。

団体2 基本的に使うのは、農地用です。農家が田んぼの近くで使っている。米を作るときに使っているやつを推奨されておりますので、それをメインに使うようなかたちにしています。出来る限り問題がないようなことも含めて考えております。

—活動時の写真を提示—

それとこの写真ですが、これは410号・馬来田地先、これから袖ヶ浦のほうに向かっていくところですが、これがずっとこんなかたちで縁石のところを盛ってしまっているんですね。これが長さ1mくらいになりますかね。特に癖が悪いのはこの木の根元がすごく硬くて、



草刈り機で刈っても刈れないというのがあって、私たちも最初のころはこういうやつは鎌で傷を作って、重機で全部剥がすようなかたちでやっていました。それでも、根が残ってしまうわけです。そこを除草剤でやっていくとこれがあんまり伸びないというのが今までの経験上でわかりましたので。これは、先ほども言いましたけれども、君津地区の県道・歩道の両脇ですね。私たちがやっていることはそれほど間違っていないかなと見ていただいてわかるのではないかと思います。

中川副委員長 毎年、毎回、小櫃のほう、味楽園さんと山本の井戸のほうにしょっちゅう行っていますが、皆さんの活動をよく見ていまして、見させていっていていまして、声をかけなくちゃいけないのかなとあらためて思ったのと、とっても生き生きされてやっているっていう印象を持っています。ですので、県外の車も多いので、たぶんこういう綺麗な姿、道路の状況を見て感じているところも市内だけではないと思いますので、おおいに頑張ってもらえればと思います。ありがとうございました。

秋元委員長 それではよろしゅうございますか。それでは終わりにしたいと思います。大変ご苦労様でございました。

---

## 事業番号 6

事業名 イベントを活用した地球温暖化防止活動

団体名 エコファースト君津

プレゼンテーション

秋元委員長 それでは時間となりましたので、事業番号 6 番「イベントを活用した地球温暖化防止活動」のプレゼンテーションを始めます。発表時間は 10 分、質疑応答が 10 分となります。

団体名および発表者の紹介をしてから事業の説明をお願いします。それでは、よろしくをお願いします。

団体 — 配布資料にて説明 —

---

## 質疑応答

秋元委員長 それでは質疑に入らせていただきたいと思います。何かございますか。

議員委員 会員の方で地球温暖化防止推進員が 3 名いらっしゃるということですが、これ千葉県知事から委嘱されているものだと思いますが、何年間委嘱されてどういう仕事をされる委嘱内容なのでしょうか。

団体 4 年です。色々な団体に所属しているケースが多いのですが、そこで主には千葉県環境財団とともに、あるいは推進センターというところがあるんですけれども、そことともに二酸化炭素、Co2 の削減という

ところを広く市民にあるいは子どもにその重要性を伝えていくと。そんなところを活動の中心にしております。

議員委員 去年、周南公民館で小学生を対象に出前講座をされているということで、企画書にもイベントを活用して広く市民の方に訴求する、消費生活展に7月に出版予定とここに書いてありますけれども、たぶん環境月間って市で6月かなにかだと思うのですけれども、いろんなイベントとかあるかと思います。市のほうで環境関係のイベントとかそういった中でお話されるとたぶん出られる機会、発表する機会がもしかすると得られるかもしれないので、市のほうとお話されたほうがいいのではないかと思います。

福村委員 Co2削減っていうのはやっぱり世界的に国としてもエネルギー政策ですよ。この問題を市民レベルで対応するというのは、主に広報を中心にやっておられるのだと思いますけれども。あとは植栽ですか、緑を植えるとか。両面ありますよね、削減と。市民レベルでこういう運動をしようとちょっと具体的なイメージがわからないのですけれども。世界的に必要性はみんなわかっていて、基本的に市で発電してゴミを焼いて発電施設を持って市内でそれがまかなえるようなだとかそういうイメージを持ってらっしゃるのでしょうか。

団体 そこまではなかなか難しいと思います。時間もコストも色んな意味で。  
福村委員 具体的に何を目指しているのか、ちょっとつかめない。素晴らしいことだと思うのですけれども。

団体 特に子どもたちに、これから将来は子どもたちを中心に千葉県であるいは君津市で地球温暖化が進むとこういうふうなことが起こりますよと。実際、今、地球ではあちこちで防災も含めて地球温暖化の影響で気候変動がこういう事態が起こっていますけれども。これを少しでも皆の力で抑えていきましょうと。最近はその対応するということが、なかなか難しくなっているので、それを起こるものだという前提で適応していきましょうと。適応するにはどういったことをしたらいいのですかというのを子どもたちと一緒に考えたい。

福村委員 環境教育の一環として。そういう周知をする。そういう活動ですね。  
団体 ええそうです。

藤川委員 ISO14001の活動との関係はどのようにやっておられますか。

団体 特にはないです。考えてないです。

藤川委員 製鉄所も他の企業の近いところありますよね。それぞれの関連のところとうまく連携をとられたらどうかと思ったのですが。

団体 ISOはですね、例えば環境カウンセラーってあるのですが、私もそこ

には所属しているんですけども、そこでの活動はもっと対象を広く企業にしたり、そういう活動なんですけど、我々はもっと市民寄りの活動にしていますので、ISO というよりも、むしろどうでしょう、最近ですとSDGs (エス・ディー・ジーズ) のようなそちらの活動に近いものとして理解している。SDGs (エス・ディー・ジーズ) も我々の中で環境の一部でなくて、SDGs (エス・ディー・ジーズ) の中で環境を考えていこうというようなかたちで捉えていま勉強しているところです。

藤川委員 市民電力を 2020 年というふうなお話がありましたけれども、これ具体的な構想はどのような。

団体 構想はこれからですけども、八千代に市民レベルの団体がつい先日発足しまして、エコ・ライディング八千代というところが主にやっているんですけども。具体的には、地域の幼稚園の屋根の上に太陽光パネルを設置しましょうと。そのパネルは子どもたちが作りましょうと。子どもたちの手で作った太陽光パネル、それを幼稚園の屋根の上のせて20kgの太陽光を、電力を作りましょう。それを手作りでやっている。それを広げていくことによって、再生可能なエネルギーだけで生活できる社会を作っていこうという。そういう発想です。

新田委員 主に家庭から発生する Co2 の測定をして、そしてそのフォローをしていく。こういうふうなことなんですけれども、具体的に家庭からの Co2 の発生についてどういったケアをされているのか。それをちょっと教えてください。

団体 具体的にはうちエコ診断というところがわかりやすいかなと思います。エネルギーの使用について、あるいは二酸化炭素の排出について、十分理解している人ってまだまだ少ないんですね。我々は主婦の方であれ多くの方にアンケートをとりまして、ご家庭の状況について、項目について教えてくださいと。そしてその情報から実際に環境省でもっている専用ソフトにそのデータを入れて、今の計算の状況、Co2 の排出量はこれぐらいですと。地域の中でどれぐらいの水準のところにありますと。もっと減らしていきましょうと。減らすためにはこういう方法がありますよと。そういったようなことを電力であれ、ガスであれ実際に一緒に考えて目標に取り組んでもらうというようなことをやっております。

新田委員 家庭からの排出量規制って特にないのですか。

団体 特にないです。家庭の排出量が多いというのは、比率が多いということは今言われておりますが。

秋元委員長 それでは時間となりましたので、質疑を終わらせていただきます。大変ご苦勞様でした。ありがとうございました。

---

事業番号 7

事業名 SCP (清和コミュニティパーク) 創造プロジェクト

団体名 SCP作り隊

プレゼンテーション

秋元委員長 それでは時間となりましたので、事業番号7番「SCP(清和コミュニティパーク)創造プロジェクト」のプレゼンテーションを始めます。発表時間は10分、質疑応答が10分となります。

団体名および発表者の紹介をしてから事業の説明をお願いします。それでは、よろしくお願いします。

団体

— 配布資料にて説明 —

---

質疑応答

秋元委員長 ありがとうございます。それでは、質疑に入りたいと思います。質疑のある方はお願いします。

新田委員 非常に素晴らしい活動だと思っておりまして、やっぱり少子化の影響というのがこういった教訓になっていくのかなど。この市民が主役のまちづくり事業っていうのは、今回はじめてエントリーされている。今はこうやって40万近いお金を補助されてなんとかしのいでいけるんですけど、将来的には何か考えておられるのでしょうか。

団体

そもそも補助金に頼ってしまった運営をずっとしてしまっていくのは危険だと思っていて、今回もこういう内容で受けられるかもしれないよということで申請をさせていただいているのですけれども、もともとは利用者が払うお金の中でやっていたようなものにしないといけないと思っています。ですから今回についても、子どものことについては、月々500円くらい集めてお菓子代というかたちでやっておりますけれども、ゆくゆくは一人の子について、月々3千円くらいは集めてお菓子以外の講師の費用とかも運営費として集めた中から支払いがしていけるようにというのを考えております。ただ、それを考えたときにやはり子ども教室の関係だけでやっていくと思うとやっぱりかなり厳しいので、それはこちらの作り隊の今後みたいなところにも入れてあるのですけれども、収入を得たいという部分で例えば古着屋みたいなの、地域の方に寄付してもらった洋服を売るだとか、あとは週末カフェをおこなって、そこからある程度マージンをとるといふかたちを。まだすぐには始められないのですけれども、そういうのも徐々に始めて行って、きちんとその中でちゃんと収益があがって、そこから経費も落とせるといったような

かたちに徐々にしていきたいというかたちで考えております。

福村委員

この間、清和公民会で講演をやられているのを拝見したのですが、素晴らしいですね。今の日本の地域の問題を捉えて地道に実行されているので、これが本当に君津全体にあるいは全国的なものになっていけば本当に今の深刻な過疎問題、地域崩壊問題が解決していくのでしょうか。市の努力ではね、なかなか大変だけど、その一方で皆さんみたいな方たちを敬服しているのですけれども。やっぱりこれは岡崎さんみたいなリーダーがおられるとね、ある程度推進できるのでしょうか、皆のものにしていくにはやっぱりかなりその実行力のある、企画力のある人材がどれだけ地域に残っておられるのか。そのへんはどうか。

団体

清和地区自体は、割と教職を経験していらっしゃる方が多くて、こういう話を説明させていただくと、それだったら1時間くらいだったら私行きたいわとか。そういう方も何人かはいらっしゃいます。もともとそういうボランティアの精神みたいなものが結構根付いていて、学校に無料で子どもたちの見守りとかをやってくださっている方も何人か登録があるという状況なので、そういう意味ではもうちょっと認知度が高まってきて募集をかけていくと、ある程度の人数は集められるのではないかなと思っていますところ。

あと、そういう意味で認知度を高めたいので、去年から何度か説明会のほう開いているのですが、やっぱり説明会というかたちだとなかなか皆さん集まりづらいそうなので、今回の資料のところに書いてあるのですけれども、SCPかわら版といったかたちで、あえて手書きの新聞みたいなものを作って、そこにSCPというのはこういうもので、いまこんなことをやっていますというのを回覧板で何カ月にいっぺんといったかたちで目を通していただく。なんか噂でどうも小学校ではじまったらしいよというのが徐々に広まっていくようなこともイメージしています。出来ればやりたいことは全部一気にはじめられれば都合がいいのですけれども、今年1年自分がやってきたことを考えると一気にやるというのはやっぱり難しいようなので、徐々にやってどうも面白いことがはじまったらしいと興味を持ってくれた人から増やしていくようなかたちで、3年後、4年後、5年後ぐらいにほぼほぼかたちが見えていくようなふうになるようなイメージでやっているところ。

福村委員

遠距離通勤の方が多いのですか。

団体

そうですね、私ですらそうですね。

福村委員

そういう仲間をね、集められてね。

団体

基本的には少人数なので、その親御さんたちの繋がりがすごく強いで

す。なので、今年、私PTAバレーなんかにも参加していることなんかもあったりして、そうすると親たちの横の繋がりがかなり強い地域なので、そういう意味で私が自分自身が見守り隊として働けないにしても、こういう状況でこうだから、出来たらやってもらえないかっていうのを頼むというのは、不可能ではないのではないかなと今のところ考えております。

福村委員

リタイア組をね、活用してもらいたいですけどね。

団体

今回、統合してしまうとスクールバスになってしまうので、子どもの見守りとかもだいぶボランティアも不要になってしまいます。ただ、地域に関わってくださっている気持ちっていうのをこういうところで今度は使っていただければなというふうに考えています。

齊藤委員

交通方法ですけれども、スクールバスで秋元小に行く人はみんな一緒に乗ってそこに集まっていくのでしょうか。

団体

今年、今回に関してはまだ統合がされないので、秋元小のすぐ脇が公民館なのでそのまま見守る人が連れて行ける状況です。ただ清和小になった場合には、今スクールバスの運行とかも話し合っている時期ですけれども、そこに秋元小に寄るっていう、そこもバス停に組み込んでいただければ。清和小から秋元小に送迎が必要だと作る意味がなくなってしまうので、そういうかたちを。

齊藤委員

そうなるといいですね。

中川副委員長

イベントと子ども教室は地域の人たちでやってもらう。イベントについては、どういうふうにやるのですか。

団体

最終的には、地域で話し合っていると「なんか、秋刀魚食べたいよね。」とかよくあると思うのですが。そういうのを、じゃあ秋刀魚を焼く会をやりたいとなったら、SCP作り隊の登録してある方に一斉にこういうのをやりたいから手伝ってくれる人いないかというかたちで投げて、来てくれる人を中心に企画したものをひと月に1回とかやるというイメージなんですけれども。今年に関しては、もうちょっと私のほうである程度企画を考えて手伝ってくれる人を募集して、子ども中心のイベントを企画する感じで考えています。

藤川委員

子どもさんとそれから高齢者の交流というのもお考えになっているのですか。

団体

もちろんです。高齢者のかたも元気に働ける、動ける方はどんどん講師とかそういうほうで積極的にやっていただく。あとはもうちょっと進んでいったところには、子どもたちが訪問したりとかっていうことも考えながら、積極的に交流をとっていかないと。清和地区、正直、今子ども

にスポットを当てて言っていますが、どちらかというと高齢化のほう  
がかなり大きな話なので、本当はゆくゆくSCPの日中に大人の教室を  
秋小に行くと必ずやっているというのが本当はメインです。そこに地域  
の方が歩いて来れば、誰かがいていろんなことをやっていて、お茶も飲  
めるし、そこに集まってというのが一番のメインです。それをはじめ  
きっかけとして、子どもをまずは始めるというようなイメージで考  
えています。

秋元委員長     それでは、時間になりましたので質疑を終わらせていただきたいと思います。  
                  大変ご苦労さまでした。

---

## 事業番号 8

事業名 濃溝の滝（清水溪流広場）にホテルの住みやすい環境を作ろう

団体名 濃溝の滝ホテルを守る会

プレゼンテーション

秋元委員長     それでは時間となりましたので、事業番号8番「濃溝の滝（清水溪流  
広場）にホテルの住みやすい環境を作ろう」のプレゼンテーションを始  
めます。発表時間は10分、質疑応答が10分となります。

                  団体名および発表者の紹介をしてから事業の説明をお願いします。そ  
れでは、よろしくお願いします。

団体                                   — 配布資料にて説明 —

---

## 質疑応答

秋元委員長     それでは早速、質問に入らせていただきたいと思います。何か質問  
ございませんか。

福村委員        今、脚光浴びていますね、濃溝。あれとの関連もあるのですか。この事  
業はもともとね、そういう自然環境をホテルに残すというのが目的なの  
でしょうけれども。

団体             はっきり言ひまして、人を呼ばないとやっぱりどんどん衰退していき  
ますので、そういった自然を利用して守りながら、ひとくくりには皆さん  
に来ていただければ、それは滝もホテルも同じだと思います。君津の活  
性化と言いますか、やっぱり君津にこれだけ素晴らしいところがある  
ということを皆さんに知っていただくというのは。

福村委員        濃溝の滝を見に来た人たちが、こういうのもあるのかと。じゃあ、夜に  
も行ってみようと。その効果を狙っておられるのですか。

団体             そうです。

福村委員        これはもともといたホテルなのですか。もともといた在来種なのです

か。

団体            そうです。一部、放したっていう人もいますけれども。先ほども言いましたけれども、ゲンジとヘイケが両方見られるっていうのはやはりなかなかないと思います。

新田委員        数点お伺いしたいと思いますが、ちょっと細かい話なのですが、支出費用の⑦通信運搬費で単価 92 円とありますが、92 円の今、例えばハガキだったら 62 円とか封書で 82 円。92 円っていうのは私あまり聞かないのですけれども。

団体            定形外のものを入れると。具体的に 92 円がどうのこうのではなくて、定形のものと同定形外のものと同入れるのと案分して。

新田委員        わかりました。それから駐車場ですけれども、整理で単価 1 万円、それで 20 日間っていうふうになっていますが、昨年の来客者数はどれくらいありましたか。

団体            スタッフがそんなになくて、把握するほど正直言って人がいません。とにかく駐車場の数でいきますと、第 1、第 2 があって第 3 までいっぱいになっています。

新田委員        ホテルを見に。

団体            はい。ホテルを見るために。大型バスも来ています。ただ個人的に言わせていただきますと、私たちの会で駐車場まで整理する必要があるのだろうかという疑問はあるのですけれども。

新田委員        これ外注単価ではないのですよね。

団体            いろんなことで地区の人にやってもらえる人はいないかということで考えているのですけれども。

新田委員        いわゆる周りの周辺の方にボランティアっていうか、謝礼として 1 万円払いたいというわけですね。

秋元委員長     今、年間 60 万人と言われる人が来ていて、実際に地域に対して経済効果があるのでしょうか。

団体            プラスマイナス、両面あると思いますけれども、私個人的には人が多く来てくれれば、そこでやっぱり何かしらのプラスにするという知恵が必要だと。それをやっぱり出さなきゃいけないのだと思っています。

私どももそこから何かを見出すという知恵が不足しているっていう考えを持っておりまして。例えば、ふるさと物産館、道の駅がありますけれども、あそこは数年間赤字経営をしていたというように聞いております。しかし、一昨年は滝がブレイクして、きみつふるさと物産館に来る人が多くなって配当金を出したと聞いております。1 年間だけ。

地域にどれだけ効果があるかわかりませんが、例えばあそこ観



光バスやなんか沢山来ています。数年前は最盛期の紅葉の時期、1日最大150台ぐらい大型バスが来ています。

秋元委員長 有料駐車場にならないのですか。  
団体 それが一番だと思います。そこはちょっと市役所さんと考えていただ

いて。  
もうちょっと地域の皆で知恵を出し合って。私たちも最終的な目的はやっぱりそこにいきますので。そこでやっぱり何か地域が潤わないと長続きしませんので。

石井(清)委員 まさに皆さんのおっしゃるとおりで、やっぱりまずいろんな地域の、要は日本全国からこれだけ有名になったところで、まずお客さんが来てくれるというのは大前提で、その中でそれを利用して地域の方々にどれくらい貢献してもらえるかなど。駐車場有料化については色々ご意見をいただいておりますけれども、その部分は担当部のほうで一生懸命検討していますし、また色々お店作れば儲かるよね。というような話がありますが、では誰が作ってくれるんだとか。なかなか難しい部分もあります。でもこの地域資源、観光資源というのは市としても本当に大事にしたいと思っております。

秋元委員長 他にないようですので、これで質疑を終わらせていただきます。大変ご苦労様でした。おおいに期待しておりますので、よろしく願いいたします。

---

## 事業番号 9

事業名 地域の景観づくり事業

団体名 里づくりの会

プレゼンテーション

秋元委員長 それでは時間となりましたので、事業番号9番「地域の景観づくり事業」のプレゼンテーションを始めます。発表時間は10分、質疑応答が10分となります。

団体名および発表者の紹介をしてから事業の説明をお願いします。それでは、よろしく申し上げます。

団体 ー 配布資料にて説明 ー

---

## 質疑応答

秋元委員長 ありがとうございます。早速、質問に入らせていただきます。よろしく願いいたします。

福村委員 鴨川へ行く途中のニッコウキスゲが植えてあるところ。あそこですか。

団体1                    そうです。

福村委員                素晴らしい活動で。自治会でやっておられるのですか。

団体1                    今までは環境保全事業として、保全会という団体がやっておりました。とにかく3月いっぱいはその管理でやっておりますけれども、私どもがそれを引き継ぐと。国道の92号線ですか。

秋元委員長            直線距離であればどれくらいあるのですか。

団体1                    650mぐらいです。

秋元委員長            もっとあるのかと思いました。

団体1                    狭いところだから、長く見えるのですかね。

秋元委員長            ずいぶん長く見えますよね。

団体2                    あれは1株を栃木の戦場ヶ原から買ってきましてね、それを増やしたんですよ。今から12年前に。

秋元委員長            あそこは、良いところですよ。

福村委員                ニッコウキスゲって、だいたい高地にありますよね。環境が合ったのですかね。

団体2                    そうですね、尾瀬とかね。

団体1                    ニッコウキスゲそのものは、寒いところのものなんですよ。今現在は株もとが草のようなもので。実際は自然にガードしています。葉っぱが枯れて、その枯れたのが曲がって株を囲ってその上に雪が降ったり、霜とかそういうものに耐えうるために、自然に作られているもので。今は枯草のように見えますけれども。あれを綺麗にしちゃうと、枯れるかもしれませんね。

福村委員                あれは園芸種じゃなくて、原種なのですか。

団体1                    そうです。いわゆるヒメノカリスの系統が園芸種です。

福村委員                里づくりの会って漠然としているからよくわからないのですけれども、なんか地域の名前を、大野台。

団体1                    そうですね。団体の名称ですか。これは例えば、大野台里づくりの会とか。

福村委員                余計なことかもしれませんが、ちょっと漠然としすぎかなと。地域のそういうものを出されたほうが良いかなと。

団体1                    参考までに聞くのですけれども、地域名称を入れたほうがいいのでしょうか。ただ、自分たちはさっき言った環境保全事業も12年やっていますけれども、あまり大野台のなにないってというのは、やってこなかっただけのことで、でも地域をご存知ない方、また事業をやっている場所がわからないということであるとしたら、じゃあ大野台里づくりの会のようなことを。

- 福村委員 別にこだわりませんけれども、ちょっと漠然としすぎるなど。地域に焦点を当てないとこの事業は生きないなと思ひまして。
- 秋元委員長 こういう質問は関係ないでしょうけれども、平均年齢おいくつですか。
- 団体1 私が 80 です。ここの名簿にありますのは。
- 団体2 みんな 70 以上です。長老が 94 ですけれども。
- 団体1 この会に入っておられる方たちの中心になっているのは、私も渡辺さんも含めて君津市の健康体操やっております、それで頑張っている仲間が中心になってボランティアとしてまたやりましょうということなんです。ここにもちょっと書いておりますけれども、地域の住民の人たちのいわゆるコミュニケーションって言いますか、交流っていうのが本当に。仕事がバラバラどっか行っちゃって、夜になって暗くなってから帰られるかたがほとんどです。私たちは四六時中うちにいますけれども、そういうことも少なくなっちゃったねということで、こういうことをとにかくやっついていこうと。それでここの事業の実施の目的の中に、当該活動を通じた地域住民の交流機会の創出や連帯感の醸成とかを出しています。それでないと、なかなかうまくいかない。それからもう一つは、この株が自然に増えていくものですから、増えたものはもう個人に分けて、自分で植えるところがあれば、自分の管理で植えてくださいと。だから、家の宅地の中に植えようが、垣根の外に植えようがそれはこっちでは干渉はしないと。実際にさっきの体操クラブでは、今もアネモネという花の球根を買って、ポットを買ってきてそれに培土を入れて皆さんに分けてあげています。管理は自分でやりなさいよと。
- 団体2 もう、咲いてきました。
- 団体1 咲いてきましたね。ということで、その皆さん同じものを持っていると、今みたいに。咲いてきたね、うちのは赤いのが咲いたとか、紫が咲いたとか、話題が統一されるんです。共通の話題を持つということが、やっぱり一番いいのではないかなということで、こんなボランティア活動をやりますと単純な呼びかけなのですけれども。
- 秋元委員長 車が速いから、十分気をつけてください。  
今日のご苦労さまでございました。頑張ってください。ありがとうございました。

---

事業番号 10

事業名 亀山地域おこし移住支援プロジェクト

団体名 暮らしの森かめやま

プレゼンテーション

秋元委員長 それでは時間となりましたので、事業番号 10 番「亀山地域おこし移住支援プロジェクト」のプレゼンテーションを始めます。発表時間は 10 分、質疑応答が 10 分となります。

団体名および発表者の紹介をしてから事業の説明をお願いします。それでは、よろしくをお願いします。

団体 ー 配布資料にて説明 ー

---

### 質疑応答

秋元委員長 ありがとうございます。それでは質疑に入りたいと思います。

福村委員 私も一度、みずうみマルシェ参加させてもらって。素晴らしい活動を地道にやられて。外房の方からも、鴨川だとか御宿、そこからも。そういう意味でも、半島の中心にあつてある意味良いロケーションかなど。地道な活動がだんだん広がりをもってきた感じがして、非常に敬服しております。また、自然学校っていうのは、亀山少年自然の家ですか。

団体 いわゆる君亀と言われているところですね。

福村委員 千葉の自然学校ですね。

団体 はい。県立の自然学校。

福村委員 私もあそこのシニア自然大学というのに 1 年間、週 1 回通いまして。あそこはキャンプとか、山のプロがおられますからそういうところと連携してやられると非常に結構かなど。

団体 やっぱりスタッフの皆さん方が自然のことを熟知していて、私たち素人だとやっぱり危険なことというのがわからないと思うので、スタッフの方たちが見守って、一緒にやってくれるというのがすごく心強いです。

福村委員 着実に成果を挙げておられて、本当にご苦労様でございます。

新田委員 ツリークライミングなるもののイベントに切り替えた理由はどういう経緯があつて切り替えたのでしょうか。それから、イベント出店料が 1,500 円ありますけれども、これは適正な価格なのかどうなのか。そのへんをあわせてをお願いします。

団体 まず、このツリークライミングからはじまる森林、森に目を向けるような内容に切り替えたのは、1 年目のみずうみマルシェもそうだったのですけれども、地元の例えば 1 年目だと、雨城楊枝の体験をしたりとか、地域の素晴らしい伝統をというのを見てもらうのと、あとみずうみマルシェの会場、ゾウタ親水公園もちよつと登れる遊歩道があつて、そこを使って自然体験もしてもらっていたりはしていたんですね。ただやっぱりフィールドが狭かつたので、もっと森とか。君津、亀山とか清和っていうのは本当に色々な生物学者の方とかの話を知ると多様性がすごくある

場所だというのを聞きました。それでしたら、もっとそこに住んでいる私たちも知らないことがたくさんあるし、都会の人たちも体験したくろうなという思いがありまして、今年はちょっと森林のほうに、亀山の宝かなと思ってそちらに目を向けるようにしました。

参加費については、君津、木更津周辺で行っているイベントの価格がそれぐらいなので、適正かと思います。

中川副委員長 みずうみマルシェが今度、アウトドアイベントになっていますけれども、何か名称は考えていますか。

団体 今、色々と考えている途中でございます。ちょっとみずうみマルシェって名前が結構認知されて、それを外すのもどうかなと思っているところもあり、ただ、湖の脇ではなくなるし。というようなこともあって、ちょっとまだ決まってはいないのですが、これからこの内容が確定すれば、自然学校のほうと話をし、みずうみと暮らすみずうみマルシェみたいにするのかどうか決めていこうかと思っています。

重田委員 支出内訳書の中に⑪委託料、ひまわりオイル圧搾、⑭備品購入費、ひまわりオイル圧搾機とありますが、この関係を教えてください。

団体 まず委託料のひまわりオイル圧搾については、ひまわり畑が三反、すごく広い面積ありまして、私たち素人がもし種を全部圧搾するとなると本当に業務用の大きなものが必要になってきてしまいます。それは何百万もしてしまっても買えませんので、茨城のほうに同じようにひまわり畑を作っている NPO 団体さんがいまして、そちらはもう業務用を持っていて、委託でオイルを取るっていう業務をされていて。そちらに取れた種は半分くらい送ります。その金額になります。備品購入のほうの圧搾機は、自分たちの手で、手絞りができる、本当に家庭用の小さいものです。それをなぜ購入したいかという、取れた種全部を業者さんに送るのではなくて、私たちのほうで保管しておいて、オイル作り体験というのを、年に月に 1 回くらい開催をして子どもたちとかに実際に絞ってもら。そういう体験をして、ひまわりの種まきから全部参加してもら。予定なので、子どもたちとかにしたら、この小さな種が蒔いて芽が出て花が咲いて、出来たのはまた蒔くだけじゃなくて、こういう使い道もできるんだよというような一連のその植物の体験を身をもってしてもらいたいと思って備品として購入したいです。

福村委員 ちょっと会員の人数が 6 人では少ない。もっと増やせるのではないですか。活動に広がりが出てくるのではないですか。

団体 そうですね。ただ例えば、ひまわり畑づくりに関しては、ここのメンバーにはなっていないけれども、常に協力して下さるボランティアが何

人かいるので。実際、ひまわり畑づくりは、60代、70代のお父さんたち5人がメインになってやっています。私は出来るときに一緒に草刈りしたりだとかしています。やっぱりお母さんたちは仕事に行っているので、毎回、ひまわり畑づくりの手伝いなんかに行けないので、このひまわり畑づくりのメインはやっぱりこういう方たちボランティアの方たちに。

福村委員           メンバーが6名なので、もっと増やされたらどうなのかなって思って。協力してくれるのではないですか、皆さん。

団体                ちょっと誘ってみます。

藤川委員           移住希望者、Uターン希望者、観光客にということが書いてありますけれども、2年前からやられてそのへんはそういう具体的な効果が出ているのでしょうか。

団体                正直、苦戦しております。まず、移住支援のほうですけども、空き家を今、住民の方たちから少しずつ提供していただけるようにはなったのですが、手直しが必要な物件ばかりなんですね。移住したいっていう人がちょこちょこ来るので、それを紹介までは出来ているのですが。ただ、やっぱり見てもらおうと、手直しすごい必要になるね。ということで。例えば夷隅とか別のところだと、そういう移住支援の助成金とか出ているんですね。家賃補助とかもあるの、そっちも見に行くじゃないですか、皆さん。そっちに決めちゃいましたみたいな感じで、苦戦しております。

秋元委員長        私の友達も茨城でひまわりの農園やっています、いい塩梅に酒蔵なんかがあって、そこに呼ばれていまして、私も年1回。県内外から集まっていますから、そういう盛んなものにしてください。期待しております。今日はありがとうございました。

---

## 事業番号 11

事業名 休耕田をハーブやお花でいっぱいにして計画

団体名 清和元気プロジェクト

プレゼンテーション

秋元委員長        それでは時間となりましたので、事業番号11番「休耕田をハーブやお花でいっぱいにして計画」のプレゼンテーションを始めます。発表時間は10分、質疑応答が10分となります。

                    団体名および発表者の紹介をしてから事業の説明をお願いします。それでは、よろしくをお願いします。

団体                — 配布資料にて説明 —

---

## 質疑応答

秋元委員長

ありがとうございました。それでは質疑に入りたいと思います。

新田委員

事業の名称が休耕田をハーブやお花でいっぱいにして計画ということになっておりますよね。前回、去年を調べてみますと、ラベンダーが1000本、芝桜が2000本というような植え付けをしているわけですね。今年はどうかといったときに、ラベンダーが500本、芝桜が500本ということで、随分、量が減っているという状況になっているわけですね。先ほどタイトルをなぜそういうふうにしたのかといったのは、要はお花をいっぱいにして計画という中で、なぜ植え付けの本数が少ないのかと。

団体

植える本数が減るのではありません。昨年、苗を買いました。それは手元に何もなかったからなのですが。昨年ワークショップを通して、それを増やす技術を学びました。だから自分たちで今度苗を作ることが出来ます。だから芝桜もラベンダーも実際に買うのは500本で十分で、あとは自分たちで増やして、どんどん増やすことができる。それが第一歩、本当に大きな一歩を踏み出せたと。だから実際にそのメンバーがどこまで増やせるかというのは、ちょっと保障はできませんが、実際には増やす技術を身に着けたので、昨年同様にそんなに2000本も買わなくても同様の効果が出せると。

新田委員

そうすると専有面積は、去年と同レベルの条件になるという理解でよろしいですか。

団体

同様とまでは、ちょっと。ここを見ていただくと、土手が2枚に分かれているのですが、今回植えるの方が面積がちょっと小さいので、2000本は必要ないと思います。たぶん500本じゃ足りないぐらいだと思うので、それは自分たちで増やした分で追加するというかたちになります。これをどんどん国道沿いに植えていきたいのですが、なかなか植える場所がそんなにすぐに見つかるわけではないので、その地主さんとかと交渉しながら。あとは植えさせてもらっても管理とかの関係で、植えてほしいっていう方は出てきてはいるのですが、その方がじゃあ管理までやってくれるのであれば、私たちが植えましょうということは出来るのですけれども、そのへん様子をみて徐々に増やしていく。

福村委員

ちょっと厳しいことを申し上げますけども、ほとんど8割方が報償費と委託料になりますよね。会員の人数も少ないし、5名ですよね。この5名では手が足りないということがあるのでしょうかけれども、やっぱりこの事業は市民が主役で手作り感というんですかね。そういう委託とか、報償費を払ってとか、それも必要なときは必要でしょうけど。全国規模でやっておられるなら、こういう名称でもいいのでしょうかけれども、君

津市の事業ですからね、やっぱり市にフォーカスしてもらうような必要があると思うのですけれども。

団体           むしろ逆のことがありますて、報償費が高いっていうのは、逆に委託費が多いのは問題。委託費が多いっていうのは全部丸投げでやってもらうっていうことです。けれどこの事業っていうのは自分たちでワークショップ形式で植えたり、参加したりするものなので、その講師の先生を雇って、それで自分たちが参加するという。だから報償費が多くなっています。委託費が多いのなら問題だと思いますけど、報償費が多いというのは逆にその分、自分たちの力でやるという意味に捉えられると思います。

福村委員           5人でやられるのですか。

団体           説明したとおりワークショップ形式で市民なり市外の方も呼んで一緒に活動していくと。確かにメンバーは、結局はコーディネートに回るわけです。実際に5人で全部植えるわけじゃなくて、例えば去年のこの2000本の芝桜もほとんど市民ですけど、十何名集まって皆で植えたので、この2000本が1日で植え終わりました。あと報償費の割合が高いっていうのは、今、申し上げたとおり、去年は芝桜を2000本買ったり、ラベンダーを買ったりで、材料費というか苗代とかシート代とかそういうのでかさんで、報償費が逆に少なかった。今年はそういうのにかからないので、逆に報償費にお金をかけてもっと活動を広げていこうと。今、説明したとおり色んなワークショップができるようになったというふうに理解していただければと思います。

福村委員           名称も君津市にフォーカスした。これは全国規模の話になって。

団体           そうですね、確かに。

新田委員           前回の参加者っていうのは、地域というか、地区というか居住地はどういうところの方が多かったのですか。

団体           こういう植栽とかボランティアで活動する人はやっぱり市民が多い。ワークショップに参加する人は逆に市外の方が多かったです。それは理にかなっているというか、やっぱりボランティア活動に来る人というのは、地区を良くしようと思っている人なので、どうしても市民が中心になる。ワークショップは、わざわざ外からでも人が呼べるように魅力的なワークショップにわざとじていまして、少し参加費もかかりますけれども。外から人を呼ぶことによって、このプロジェクトなり、この君津市の魅力を発信していくという意味でわざと両方を組み合わせてやっています。

新田委員           広告料とかあるいは通信費とかそういった関連のいわゆる人を呼び込



むための経費というのが全然計上されていないのですけれども、どうい  
う感じで啓蒙活動をされるのか。

団体 昨年は私自身が個人的に自分でお金を払ってフェイスブックとかです  
ね、SNS を有効に使って人集めをしました。今年は去年の反省もありま  
すけれども、より市民の人にもっと知ってほしかったという反省があ  
りますので、今年は紙媒体のチラシを作ろうかなと。実は去年やっぱり  
環境の問題も配慮して、出来るだけ紙のごみをださないということで  
SNS を有効活用したのですけれど、まだ地元の方でやっぱり年配の方と  
かは紙ベースがいいよっていう方もいらっしゃいますので、今年はチラ  
シを作ることにしました。

中川副委員長 休耕田とか景観への土地とかを提供、貸してくれる方で参加する人は  
いらっしゃるのですか。そういったところが、皆さんの団体に入ろ  
うとかそういう動きとかってないのですか。

団体 実際には協力はしてくれていますが、会員に対しての人件費というの  
は出ないじゃないですか。それで、地元の方はやっぱり自分ところの草  
刈りとかも忙しいのに、人の家の草刈りなんかやられてられないよ、とい  
う人も多くて。協力はするけど、ちょっと会員まではなれないよ。とい  
うかたちの方が多い。そのへんは理解いただけたら。

秋元委員長 それでは時間ですので、質疑を終わらせていただきます。ご苦労様で  
した。

---

## 事業番号 12

事業名 休耕田を利用した環境に配慮した子供も大人も楽しめる地域参加型イベントの  
開催

団体名 ちきゅう会議実行委員会

発表者 大野氏

プレゼンテーション

秋元委員長 それでは時間となりましたので、事業番号 12 番「休耕田を利用した環  
境に配慮した子供も大人も楽しめる地域参加型イベントの開催」のプレ  
ゼンテーションを始めます。発表時間は 10 分、質疑応答が 10 分とな  
ります。

団体名および発表者の紹介をしてから事業の説明をお願いします。そ  
れでは、よろしくをお願いします。

— 配布資料にて説明 —

---

## 質疑応答

- 秋元委員長  
奈良輪委員  
団体  
奈良輪委員  
団体  
奈良輪委員  
団体  
重田委員  
団体  
新田委員  
団体  
新田委員  
団体
- それでは質疑に入ります。
- 壮大な計画をお持ちのようですけれども、まず細かいことから。休耕田の具体的な場所をお考えであれば教えてください。
- 清和地区になります。
- 清和地区の場所は決まっているのですか。清和は広い場所ですけれども。具体的にどこで。
- マリポさんの農園のところの横の空いている休耕田の畑を使おうと思っております。
- それはもう決まったのか。
- 借りる予定でおります。
- それは、契約は済んでいるのですか。
- はい。話は当然しております。
- 古木さんのところと関係はあるのですか。
- そうですね、私が職とか、色々と住む場所とか色んなことを古木さんがこちらに移住してきた頃からお相談していきまして、一足先に宿泊の免許を取られたっていうことをお聞きして、私も宿泊の免許を取りたかったのですけれども、なかなか宿泊の免許って今取りづらくて、いち早く古木さんがそういう宿泊の免許を取られて、古民家を活用したということで、その時から私が色々と相談している先輩というかたちになります。
- このイベントの内容ですけれども、これは何日間、どういったかたちで実施をするのかというところが、ちょっとよくわからないんですけれども。
- 5月の10日間の連休のゴールデンウィークを使おうと思っております。ただ単に毎日イベントを開催して物を売ったり、販売したりとか宿泊して泊まってもらうというわけでもなく、日曜日からまた1週間後の日曜日があるんですけれども、月曜日は宿泊した方に月なので月を見ってもらうイベント、火曜日は火なので火を焚くイベント、水曜日は水なので水を使ったイベント。ちょっと強引かもしれませんが、皆で水汲みに行ったりとか、そういう流れで五右衛門風呂に入ってもらったりだとか。そういう流れで月曜日から日曜日までの日に関わるテーマをもってイベントを開催しようと思っております。
- イベントは先ほど休耕田を確保しているという、イベントの場所ですね。ただ、色々な場所から多くの方が集まるということで、当然、駐車場の場所の確保もされていると思いますが、その場所ってというのは確保されているのですか。
- 1日だいたい200名以上が来る予定でありまして、この1週間で千名

以上の方を誘致しようと思っています。その中で当然、駐車場の問題が出てきますので、周りの住民の方々の、これも休耕田、使っていない田畑のところを開放してもらうことを考えております。もっと細かい話をしますと、雨が降ったりするとぬかるみますので、そのあたりの土の改良とかも今考えておりました、よくセメントとか使ってしまうかもしれませんが、ウッドチップといいまして、木の木くずを敷くだけでぬかるみがとれますので、そういうかたちでなるべく、水はけの良いところから考えて今、近隣の方々をお願いをして、今、2つぐらいは借りられる予定です。結構広くて、20台から40台ぐらいは止められますので、十分お客様の誘致に関しては問題ないと思っております。

秋元委員長 昔、すだてっていう今のような玩具みたいなじゃなくて、大きなすだてをやっていたことを思うと、子どもたちはああいう魚を捕まえるとか、ああいうことをやったら喜ぶだろうなと思って、40年も50年も60年も前の話。田んぼでもあれが出来るのではないかなど。

団体 水の水曜日の日ですけれども、ちょっと川に水を取りに行きますので、汲みに行くのですけれども、その際にお子さんを連れて行くと思いますので、その際にちょっと川の魚とかに触れたいとは思っています。私も昔、亀山少年自然の家とかで川に行って、ちょっと釣りして釣れたものでちょっと料理したような覚えがあるので、そういうところはやはりこれから私たちも考えていかなければいけないところだと思います。

新田委員 茅葺体験ワークというのがありますよね。これ単価が10万円の2日間で20万円となっておりますけれども、この茅葺体験ってというのはどういうイメージですか。

団体 皆さんがご存知の茅葺ですね。これは衣食住の住む方に注目をあてておまして、どのようにそもそも編まれているのか、編んだだけで、重ねるだけでは雨漏りもすると思いますので、そのあたりの仕組みを。私もちょっと詳しく説明できないのですけれども。ワークショップの講師の方に来ていただいて、その組み方とかを説明してもらおうと思っています。

新田委員 組むためには、具材とか。この単価10万円というのは、その講師に対する1人あたりの講師料になるのですか。それとも、いわゆる茅葺の建物の金額なのか。

団体 すべて入っております。草を刈るところから始まるようなので、時期にもよると思います。取れる地域と取れない地域があるので、予定通りに取れるのであれば、費用は当然少し下がると思うのですけれども、予定外の話をした際にやはりその分の予算も取っておかないと。

色々と車で移動して運びますので。そのあたりの車の費用までは言われていませんけれども、そのもろもろ費用に入っています。

新田委員

人件費と原材料費。

団体

そういうことになります。それがすべてにかかっています。

中川副委員長

事業予定期間が4月27日から5月6日ですけれど、このイベント1本でこの事業をやるということで、会員の人数は5人の団体ですけれど、これでどうやって確保していくのですか。

団体

近隣の方たちにも当然、手伝っていただくことと、私たちのメンバーは5人ですけれども、その中で手伝っていただけるようなワークショップをやるメンバーっていうのは、もっと数多くいまして、そこのメンバーの手助けは当然必要だと思っています。それプラス近隣の方とここでワークショップやる方々がこの先ほどの茅葺屋根のメンバー、周りの人たちも1人で来るわけではないので、そこのメンバーすべて配置させていただきます。

中川副委員長

そうするとこの期間だけが事業期間だとすると、その作業をやってそのあとのレガシー的に残っていくような地域とのかかわりというのは事業の対象になってこないのだけれども、その考え方は何かありますか。

団体

我々この1週間で終わるわけではなく、来年以降も続ける、あるいはイベント以外の日でも、五右衛門風呂も使えますし、ティピで建てた竹のテントとかも他の場所で使えます。それは私の構想で色々ありまして、ゴールデンウィーク後の夏に関しては、三舟山のほうだとか、他の休耕田、田畑、休んでいるところにそういったものを建ててイベントを開催しようと思っています。

奈良輪委員

事業の内容の中で音楽の演奏、これ楽器の制作ですか。イベントじゃなくて。

団体

イベントとプラスして楽器のワークショップ。楽器を作るワークショップをやってもらいます。

奈良輪委員

演奏なんかもやるわけ。

団体

やります。

奈良輪委員

そこらへん。うるさいとかの苦情がないように。

団体

そこは私もちょっと、それこそ古木さんに相談したのですけれども、当然あります。今回、我々のほうは打楽器ですので、電気を使った音楽ではないので、ここに関して、音はそんなにうるさいというような印象をあたえることはまずないと思っています。

奈良輪委員

この事業は地域が参加することに意義があるわけですよ。地域の住民の人たちがいかにどうやって参加していけるかっていうのが問題だと思

います。それでこの事業でどうやって参加していくかを考えていただきたい。

- 団体 衣食住の食のところで、君津市といったら私は農業、食だと思っていますので、地域の方々のお野菜だとか、そういうものをその場で来ていただいて、誘致した東京、アクアラインの向こう側の人と言っていますけれども、その方々をその場でおもてなししてもらおうと考えています。
- 秋元委員長 それでは、質疑を終わらせていただきます。どうもご苦勞様でした。

---

### 事業番号 13

事業名 街角コンサート i n 君津

団体名 房総楽友協会

発表者 早川氏

プレゼンテーション

- 秋元委員長 それでは時間となりましたので、事業番号 13 番「街角コンサート i n 君津」のプレゼンテーションを始めます。発表時間は 10 分、質疑応答が 10 分となります。

団体名および発表者の紹介をしてから事業の説明をお願いします。それでは、よろしくをお願いします。

- 団体 — 配布資料にて説明 —

---

### 質疑応答

- 秋元委員長 ありがとうございます。それでは早速質問に入らせていただきます。
- 石井(紀)委員 私もよくこの街角コンサートには参加させていただいていて、とても楽しく聞かせていただいているのですけれども、今まで君津出身の若い音楽家に演奏する機会を提供するという、育てるということを確かやられていたと思いますけれども、その成果はおありでしょうか。
- 団体 その成果はあると思います。やはり本番があるということは、皆さんやはり練習をするので、若手育成には大いに成果があると思います。名曲コンサートのように大きな舞台ではないので、これから力をつけていきたい演奏家にも気軽に、頑張って練習すれば、人の前で演奏ができるよということもありますので、そういう意味では演奏家のほうもちょっと気軽に演奏会に出られるので、いいかなと思います。ありがたく思っています。
- 奈良輪委員 1 点だけお伺いいたします。支出のほうに載っているのですが、会場準備・受付等スタッフ謝礼ありますけれども、この会場準備・受付は依頼してやっているのですか。このメンバーの中でやるのではなくて。

団体 楽友協会に入っているメンバーがなかなかその当日は来られない方も、日曜日の午後ですので、お仕事の関係とかで。毎回きちんと来てくれる人を確保するというのは意外と会員はいても大変でして。それで、そのお二人が前回から来てくださっていて、責任もって当日はチケット配りとか、チケット集めとか、どうしても仕事が、はっきりした仕事がありますので、有償ボランティアということで、必ず来てくださる方がいらっしやると。その時に来られる方は色々、椅子並べだとかができるので、すごくスムーズに演奏会がはこぶのどと思って、今回から特別きちんとその項目も作ってあげさせて頂いております。

新田委員 去年、一昨年、この場で君津市内だけに限定せずに、いわゆる上総、小櫃、清和そういったところでのコンサートも是非、遂行していただきたい。こういう依頼をした経緯があると思うのですけれども、検討されましたか。

団体 検討しています。もう2回おっしゃられたことよく覚えております。でも、なかなかね、この中央の人が多いところでも、先ほども申し上げたように、人数集めるのが結構コンサート大変なことと、やはりその演奏家をそこまで車で行ってもらおうとか、私もそんなに運転が得意なほうでもないの、送り迎えのこととか、会場準備の人も早めに行ってもらわないといけないとか、そういうことを考えると、なかなかちょっと実現しないところ。今日、その話がでると思っていましたのですけれども、色々、鑑みるとなかなか難しい。やりたい気持ちもすごくあるのですけれども。

新田委員 前回も前々回も言ったと思うけれども、田舎のほうがお客さんが入ると思いますよ。こういう街中でやるよりも。いわゆる周知の仕方に問題があつて、私は入ると思う。市民が主役のまちづくり事業として、これが周知されていないという実態があるわけですね、ですからそういうその過疎地のほうでもこういうコンサートをやることによって、それはどういったことでやっているのだろうかということも知らしめることもできると思います。だから何回も何回もやっていただきたいとは思わないけれども、少なくとも上総の交流センターぐらいではね、年1回ぐらいは。例えば、2人でもいいじゃないですか。ピアノとバイオリンでもね。なんかそういったことで考えていただけると随分、違うのではないかなと思いますね。今回、6回ですか。これを5回にしてね。質もね、早川さんがこれなら自信をもって推薦できるというようなプレーヤーをそういうところに送りこんで、きっちり聞かせていただけると。そうするとですね、君津の文化のレベルがまた上がりますよ。トータルでもね。ぜひぜひ。是

非、お願いします。

- 団体 わかりました。
- 福村委員 5年目で一応、これを一つのけじめとして考えておられるのですか。
- 団体 というのは、1%支援事業は一応、名称が変わりましたがけれども、5年限度ですよ。ですから、そのあとをどういうふうに自立していくとか、この街角コンサートをどのようなかたちで続けるのがいいのかというのは非常に考えております。けじめというのは、別に5年で街角コンサートをやめるとかいう意味ではなくて、市へいただくのがけじめの年があるので。
- 秋元委員長 街角コンサートの評判がいいからいいけど。もう一つ小学校、高校生のいわる合唱団とかオーケストラとか、ああいう人たちをこう育てたり、出演の機会を作ったり、あなたのお考えの中には入れられないでしょうか。
- 団体 今年の12月15日は中学校によっては吹奏楽団が5人とかいうところもあります。十何人もいないとか。合唱も3人とか。やりたいなと思っていて、今年の12月に一応。学校の音楽のクラブもここでコンクールがあるだとか、ここで色々な吹奏楽の集まりがあるだとか、結構予定、お互いに合わすのは結構大変なんですよ。それぞれの学校の活動もあるので。でも皆さん一緒になにかしたいっていう。小規模の吹奏楽部、合唱は余計におっしゃいますね。集まって人数多くして、演奏したいと。
- 新田委員 クラシックだけですか。
- 団体 クラシックだけではないです。クラシック以外も。房総楽友協会、元々はクラシックですけども、この琵琶とかもね、クラシックじゃないしジャズもやっていますし、色々な種類の音楽を入れるときに街角コンサートでやっております。
- 中川副委員長 さっきでている、上総地区で例えば久留里でやるとか、それから今でいた学生を取り入れてやるとか、ある程度方向性はだしたので、それを実現していただきたいという願いを込めて。
- 団体 はいわかりました。ありがとうございました。よろしく願いいたします。

---

#### 事業番号 14

事業名 第4回君津高校アートフェスティバル

団体名 アートフェスティバル実行委員会

プレゼンテーション

秋元委員長 それでは時間となりましたので、事業番号14番「第4回君津高校ア

トフェスティバル」のプレゼンテーションを始めます。発表時間は10分、質疑応答が10分となります。

団体名および発表者の紹介をしてから事業の説明をお願いします。それでは、よろしくお願いします。

団体

— 配布資料にて説明 —

---

### 質疑応答

秋元委員長      それでは、早速、質問に入らせていただきます。ご質問のある方はどうぞ。

福村委員      質問ではなくて、感想、意見なのですけれども。何回か参加させてもらって、本当に皆さん方、市民の皆さん方と交流しておられて素晴らしいと思います。特に書道のところなんか感動的ですよ。皆さん方、君津の高校生が君津に住んでいる人ばかりじゃないでしょうけれども、君津市民とこうやって交流して非常にありがたいと思っております。感謝申し上げます。ただどうなのですか。学校の教科とそういう面で負担になるとかというようなことはあるのでしょうか。もう一つ、君津市の事業ですから、君津市に対する愛着は生徒さんでできたとか、そういうことは効果としてあるのでしょうか。

団体1      それについては、まず生徒のほうがこういうイベントに参加させていただいて、活動で色んな世代を超えた方々とコミュニケーションをとることが出来ていますので、それが君津市の力をお借りしてやっていることなので、君津市に対する帰属性というのは、君津市出身の生徒でなくてもかなり強くなってきていると思います。将来的にこういうようなイベントを通して君津市の職員になりたいというかたちで、こちらのほうを受験させていただいている生徒の数も増えておりますし、君津市在住でない生徒でも多くなっていますので、そのへんは役立っているのかなと思っております。

それから生徒のほうの授業に対してですけれども、行事的にもっとも生徒に負担にならないようなところで開催のほうしておりますので、特に問題はないかなと思います。夏休み終わりました、普通に授業が行われているときで、テストそれから修学旅行というのが3週間から1カ月ぐらい間が空いておりますので、もっとも開催しやすい時期というふうになっておりますので、そのへんは問題ないと思っております。

鈴木委員      フェスティバルの間、4日間、学校は休みですか。

団体1      やっております。

鈴木委員      通常どおり。



団体1 はい。本来でしたら、1回目、2回目の開催は秋休みというのが10月1日から3日間ありまして、そこを利用して1回目、2回目は行っておりました。3回目の今年度については、その期間イベントに参加してもらう文化部のコンクールが入っておりまして、そこで開催することができなくなったので、2週間前倒しというかたちでやらせていただきました。ただ秋休み前で余裕のある時期ですので、先ほども言いましたように、勉強等には問題ない状況です。

新田委員 予算の積み上げというのは、どういったかたちで、方法で、こういった結果になったのでしょうか。そのプロセスを教えてください。

団体1 昨年の開催のものをもとにしまして、同じかたちでイベントをしたときに昨年同様、どのぐらいの消耗品が必要かということで、各部活動のほうになげまして、予算に合わせてその中からどうしても必要なものというかたちで、再度、調整をさせていただきました。

新田委員 それは先生が主体的に。

団体1 基本的には生徒が主導で。全体的にオーバーしている部分の調整というのは各部活動の生徒のほうに、代表である私のほうがさせていただいたのですが、やっぱり予算が決まっているので、どうしても買いたいものの順番等をつけていただいて、ここまで絞ってきました。やっぱりどうしても削れないような予算というのがありますので、吹奏楽部の場合には楽器をトラックで運ぶようなかたちになるんですね。生徒が持って移動というのが難しいようなものっていうのも吹奏楽部もオーケストラ部の生徒には必ず必要になりますので、その予算は削ることができないというかたちで、削れる部分を削ってくださいというかたちで。昨年も開催させていただいておりますので、もし、用具で昨年使ったものが何とか使えるようであれば、特に絵具とかそういったものに関しては、去年のものが残っているのであれば、それを残して、買い足すものを少なくしてくださいとか。どうしても必要なものということで、何度かふりにかけて絞らせていただいております。

秋元委員長 こういう予算を出されていますが、実際には個人負担とかそういうのがあると大変な金額になりますよね。

団体1 そうですね。やっぱり学校のほうから色々な活動に対してでるお金というのが、もう大枠が決まっておりますので。生徒の数でPTAから徴収するお金とか県から出るお金とかになりますけれども、その予算っていうのが文化部だけではなくて、運動部とかありまして、君津高校の場合には部活動の加入率というのが80数パーセントというように高いので、やっぱりかなりの予算を使っています。ですからこういう主体で色々と

生徒たちが何かにチャレンジすることで使える予算というのが、君津市のほうから補助をいただくと生徒としては将来的な芸術の発展に繋がっていくものと考えております。

中川副委員長 お二人に聞きたいのですが、去年も参加されていますよね。

団体 2、3 はい。

中川副委員長 それぞれ 1 番印象に残ったことを一言ずついただきたい。

団体 2 私が印象に残ったことは、講座を開講したのですが、そこに小さい幼児の子だったり、高齢者の方が来て、普段とれないコミュニケーションというのがとれて、普段体験できないというか、貴重な体験だった。今後もこういうふうに活動というか、交流を図っていけたらなと思いました。

団体 3 私の印象に残っていることは、書道展が開催されるのですが、作品紹介をしてくれという高齢者の方とかが声をかけてくださったので、そういう彼女と同じくコミュニケーションをとる場としては、すごくいい体験をさせていただいたなと思っています。私は将来、看護師になりたいと思っているので、こういうかたちでコミュニケーションの取り方を学ぶことができたので、良かったなと思っています。

秋元委員長 それでは、質疑を終了といたしたいと思いますが、よろしゅうございますか。

(「はい。」と発言する者あり)

秋元委員長 それでは、大変ご苦勞様でした。ありがとうございました。

---

## 議題 2 2019 年度 1 次募集申請事業の採択協議 (非公開)

---

閉会(午後 5 時 17 分)